

第17回

# 小さな展覧会

平成10年度京都府内遺跡発掘調査成果速報

あなたも古代を感じてみませんか…

平成11年8月14日～29日

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

## 展覧会の開催に当たって

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターでは、1998年度に36件の発掘調査を行いました。今回の展覧会では、そのうち注目された調査13件をとりあげ、京都府内の各関係諸機関の発掘成果25件と合わせて展示しております。

この展覧会の目的は、冒頭で述べましたように、前年度に京都府内で行われた発掘調査の成果を出土遺物や写真などによって紹介し、併せて一般の方々に埋蔵文化財への理解を深めていただくことにありますが、そのためにも、よりわかりやすく親しみやすい展示を心がけていくつもりであります。

今回の展覧会に後援をいただいた京都府教育委員会をはじめ、協賛をいただいた向日市文化資料館、いろいろとご協力賜わった各関係機関に対しまして、深く感謝申し上げます。

1999年8月

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター  
理事長 樋口 隆 康

## 凡 例

1. 本図録は、平成11年8月14日～29日の第17回「小さな展覧会」の展示図録である。
2. 展示資料は、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターおよび各機関が主として1998年度に発掘調査を行った遺跡・遺物を対象とした。
3. 展示資料中、都合により員数等が異なる場合がある。
4. 資料調査、図録作成、展示資料借用に当たっては、次の機関ならびに諸氏からご指導・ご協力を受けた。  
(順不同・敬称略) 大宮町教育委員会・岩滝町教育委員会・加悦町教育委員会・舞鶴市教育委員会・福知山市教育委員会・綾部市教育委員会・八木町教育委員会・亀岡市教育委員会・京都市埋蔵文化財調査センター・(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館・(財)向日市埋蔵文化財センター・長岡京市教育委員会・(財)長岡京市埋蔵文化財センター・大山崎町教育委員会・八幡市教育委員会・宇治市教育委員会・城陽市教育委員会・京田辺市教育委員会・精華町教育委員会・木津町教育委員会・山城町教育委員会・加茂町教育委員会・京都府教育委員会・大阪府立近つ飛鳥博物館・早川和子・杉本政和
5. 本図録は、京都府立山城郷土資料館の協力のもと、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター調査第1課が作成した。

巻頭カラー1 巨椋池のほとりのむら(久御山町市田斉当坊遺跡)



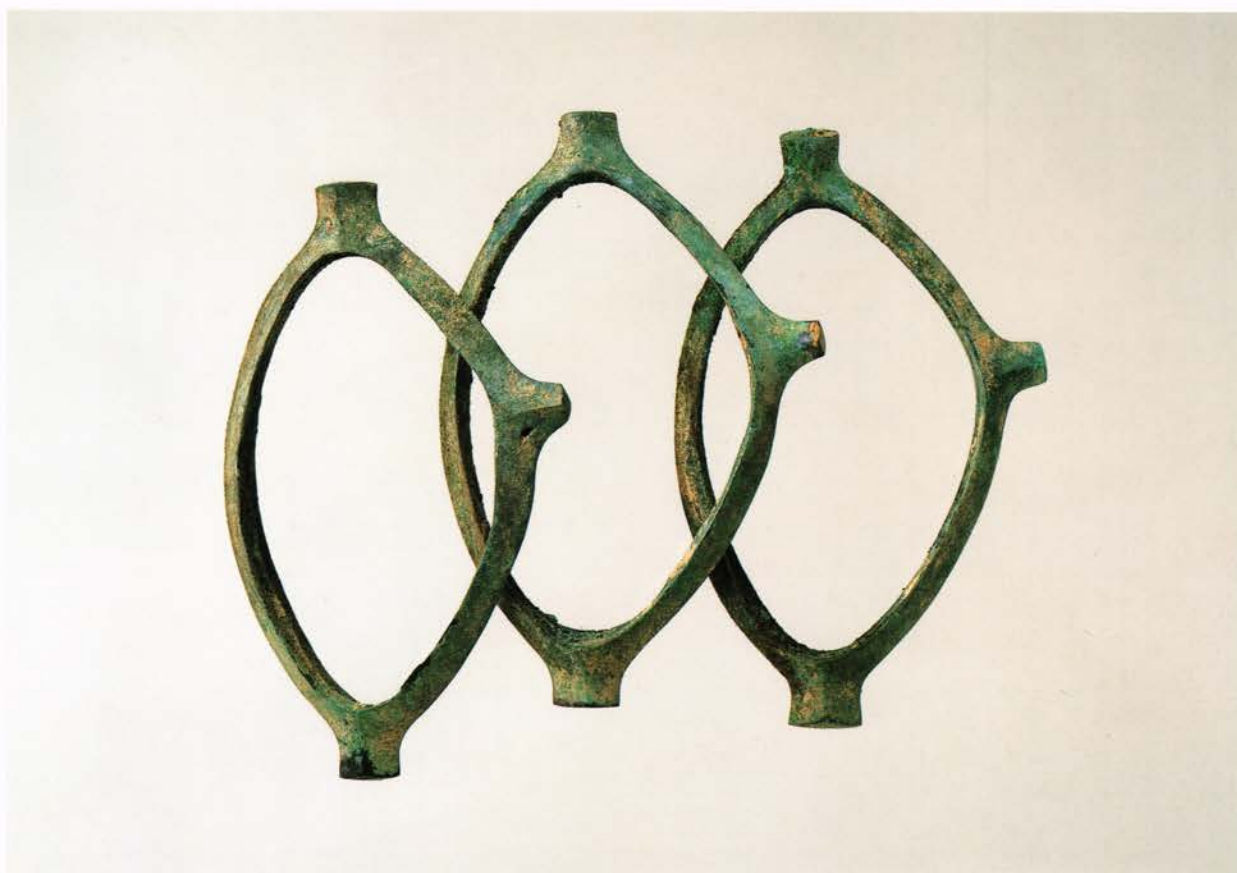
巨椋池のほとりに広がっていた弥生のむら



弥生時代中期に作られた石製の剣



弥生時代の輝きを今に残すガラスの腕輪



丹後ではじめて出土した青銅製の腕輪

# この展覧会に展示した遺跡

## 丹後

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1 浅後谷南遺跡(網野町)  | 8 千歳下遺跡(舞鶴市)  |
| 2 奈具岡遺跡(弥栄町)   | 9 天台南谷遺跡(舞鶴市) |
| 3 谷垣3号墳(久美浜町)  |               |
| 4 清漬古墳群(大宮町)   |               |
| 5 左坂古墳群(大宮町)   |               |
| 6 大風呂南古墳群(岩滝町) |               |
| 7 川向古墳群(舞鶴市)   |               |

## 丹波

- |                      |
|----------------------|
| 10 落合遺跡(綾部市)         |
| 11 武者ヶ谷1号墳<br>(福知山市) |
| 12 池上遺跡(八木町)         |
| 13 杉北遺跡(亀岡市)         |
| 14 坊主塚古墳(亀岡市)        |
| 15 太田遺跡(亀岡市)         |
| 16 余部遺跡(亀岡市)         |



## 山城

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 17 二ノ瀬出土埋蔵銭(京都市) |                 |
| 18 平安京跡二条大路(京都市) |                 |
| 19 方広寺跡(京都市)     |                 |
| 20 寺戸大塚古墳(向日市)   |                 |
| 21 長岡宮跡東面北門(向日市) |                 |
| 22 雲宮遺跡(長岡京市)    |                 |
| 23 長岡京跡(長岡京市)    |                 |
| 24 下植野南遺跡(大山崎町)  | 31 黒土1号墳(城陽市)   |
| 25 山城国府跡(大山崎町)   | 32 二又遺跡(京田辺市)   |
| 26 女郎花遺跡(八幡市)    | 33 北尻遺跡(精華町)    |
| 27 志水瓦窯(八幡市)     | 34 森垣外遺跡(精華町)   |
| 28 市田齐当坊遺跡(久御山町) | 35 樋ノ口遺跡(木津町)   |
| 29 妙見古墓(宇治市)     | 36 椿井大塚山古墳(山城町) |
| 30 芝山遺跡(城陽市)     | 37 恭仁宮跡(加茂町)    |

# 弥生のむらとくらし

今から約2400年前、それまで狩猟・採集を中心とする生活をいとなむ日本列島で、水田稲作が始まりました。弥生時代の幕開けです。現在の福岡県・佐賀県の北部や山口県西部に、朝鮮半島や中国大陸から渡ってきた人々によって伝えられた稲作は、日本海側と太平洋側の両方から、全国的に波及しました。また、稲作にやや遅れて、青銅器や鉄器といった金属器やガラスなどの今まで日本列島になかった新しい文化も伝わり、対外交渉の比較的少なかった日本列島の社会は、次第に東アジア社会の構成員として、国づくりを進めていきます。平成10年度の京都府内の発掘調査では、この弥生時代の成果が多く挙がりました。

弥生時代のむらは、竪穴式住居・掘立柱建物跡・井戸などの生活の場の周囲に深い濠を巡らせるものが一般的です。環濠集落と呼ばれるこのような集落は、他の集落との戦いに備えるためと考えられています。その濠の外側には水田が広がっています、米作りの苦勞は今も昔も変わりません。弥生時代の人々は、水路を築き、井堰(ダム)を設けて川から水を引いていたのです。これらは発掘調査の成果からも確認することができ、弥生時代の人々のくらしやなりわいをほうふつとさせるものです。

昭和初期に干拓されるまで、京都市南部から久御山町にかけて、巨椋池と呼ばれる大池がありました。この池は、宇治川・木津川・桂川が合流する遊水池となっていました。このほとりにあった、久御山町市田



弥生時代のむらの風景 (杉本政和氏 画)

竪穴式住居や掘立柱建物、村のまわりを濠がめぐっています。

当坊遺跡は、住居跡・溝などの多数の遺構のほか、ヒスイ製勾玉や石剣が製作されていたことも分かりました。特に出土した多くの石剣は、かつて(約2000年ほど前)、京都盆地で戦争があったことを想像させます。

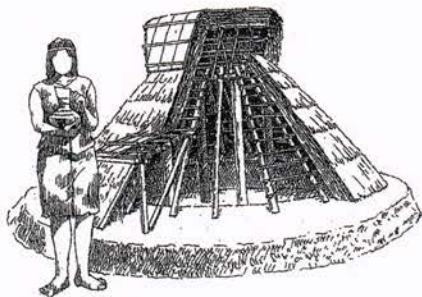
弥生時代の人々は、四角い平面形をした墓(方形周溝墓)に、木製の棺に入れられて埋葬されました。発掘調査では、そのほとんどが周囲の溝が検出されるだけです、箱形の木棺の跡が発掘調査で確認される場合もあります。弥生時代のむらの墓地は、四角形の塚が隣接するような光景だったのでしょう。

岩滝町大風呂南墳墓群の発掘調査で出土したガラス製釧(腕輪)は、鮮やかなマリンプルーで昨年度の調査を代表する成果の一つです。また、青銅製釧も京都府内で初めて出土したもので、弥生時代の首長間の交流によって入手した貴重品なのでしょう。こうして、いくつものむらを束ねる王が生まれ、古墳時代へと時代は大きく変わっていくのです。

## 弥生びとの住まい

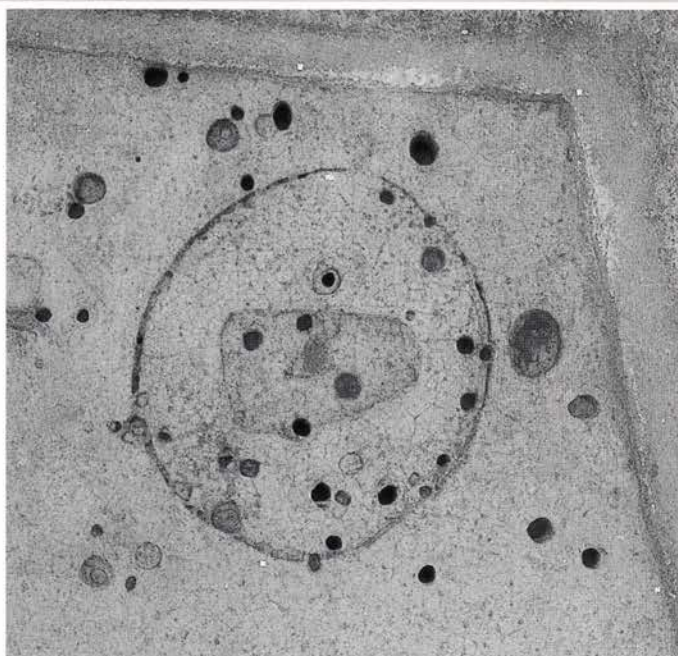
弥生時代のひとびとは、円形に地面を掘りくぼめて、柱を立て、屋根をかけた竪穴式住居に住むのが一般的でした。住居のほぼ中央には炉が設けられており、そこで煮炊きをしたり、暖を取ったりしたことも分かります。

八木町池上遺跡では、八木町教育委員会と当調査研究センターの調査によって、住居跡・墓地・環濠(むらのまわりをめぐる溝)<sup>かんごう</sup>などが見つかりました。このむらでは、緑色凝灰岩による玉作りが行われていたことなども確認されました。<sup>りょくしょくぎょうかいがん</sup>



弥生時代の竪穴式住居の復原図

『古墳なぜなにブック』大阪府立近つ飛鳥博物館こども展示図録より。



円形の竪穴式住居跡 (八木町教育委員会提供)



上空から見た池上遺跡 (八木町教育委員会提供)

## 弥生びとのなりわい



落合遺跡で検出された井堰跡（綾部市教育委員会提供）

手前が井堰部分。水路は、大きく右手にカーブしながら奥へと続きます。

弥生時代は米作りが伝来した時代で、京都府内でも水田跡や水を引くための井堰（ダム）跡が見つっています。綾部市教育委員会の調査で見つかった、落合遺跡の井堰は、川に木材を渡してせき止め、水田に水を引くための施設です。今から1800年前に築かれた灌漑施設の先駆けと言えるでしょう



落合遺跡で見つかった井堰復原図（早川和子氏 画）

木を渡して川をせき止め、水田に水を引きます。山あいの村に、木を運び井堰を造り上げる労働歌がこだまします。



## 巨椋池のほとりのむら

当調査研究センターの発掘調査によって、かつての巨椋池のほとりから、弥生時代中期(今から2000年以上前)の集落跡が見つかりました。市田斉当坊遺跡です。ここではヒスイ製の勾玉や石剣が製作されていました。巨椋池周辺の低湿地部にも、古くからひとびとの営みがあったことはおどろきです(巻頭カラー1参照)。



市田斉当坊遺跡と京都盆地の位置

(数値地図50mメッシュ(標高)をもとに作成)

コンピュータで製作した立体地形図に主要河川と巨椋池、市田斉当坊遺跡を示したものです。遺跡が大きな池のほとりにあったことが分かります。



多くの竪穴式住居跡が重なった市田斉当坊遺跡



弥生時代の玉作り関係の遺物



戦いを物語る石の剣



弥生時代の土器

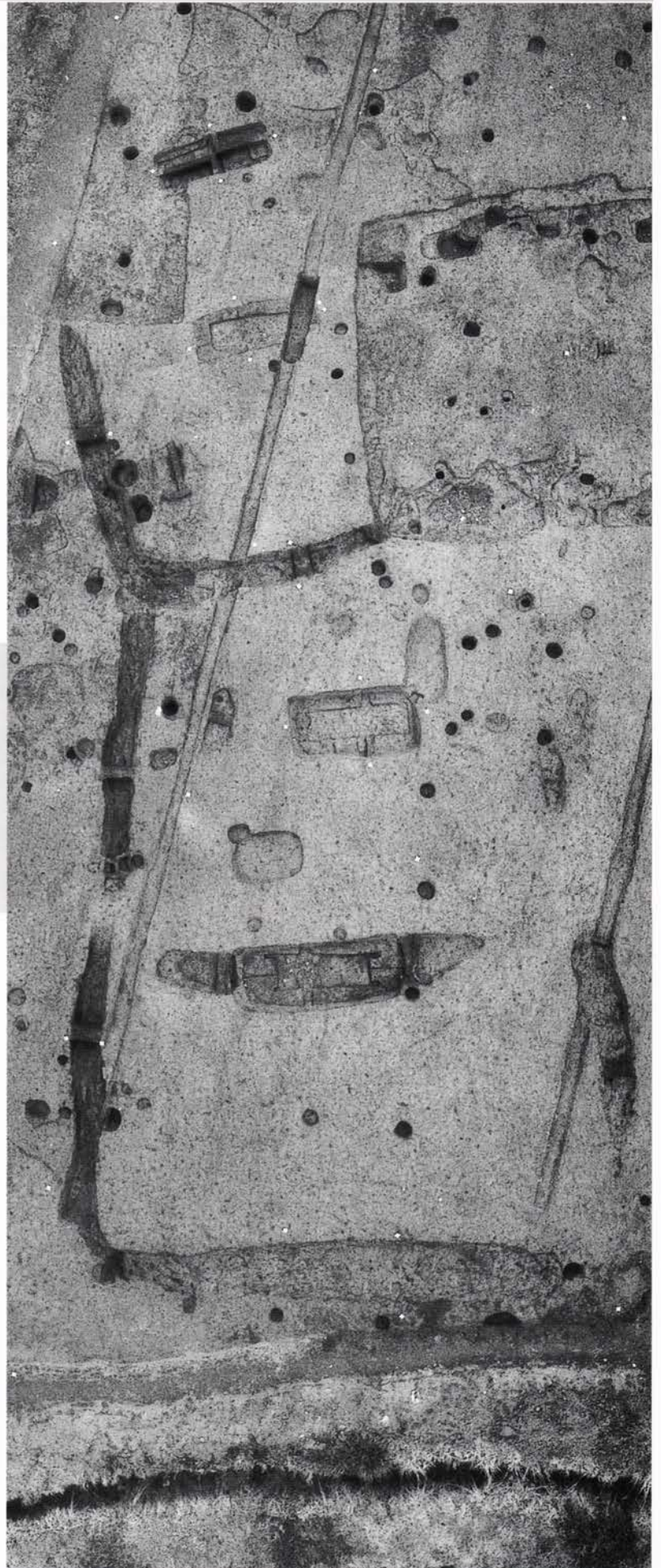


円形の竪穴式住居跡

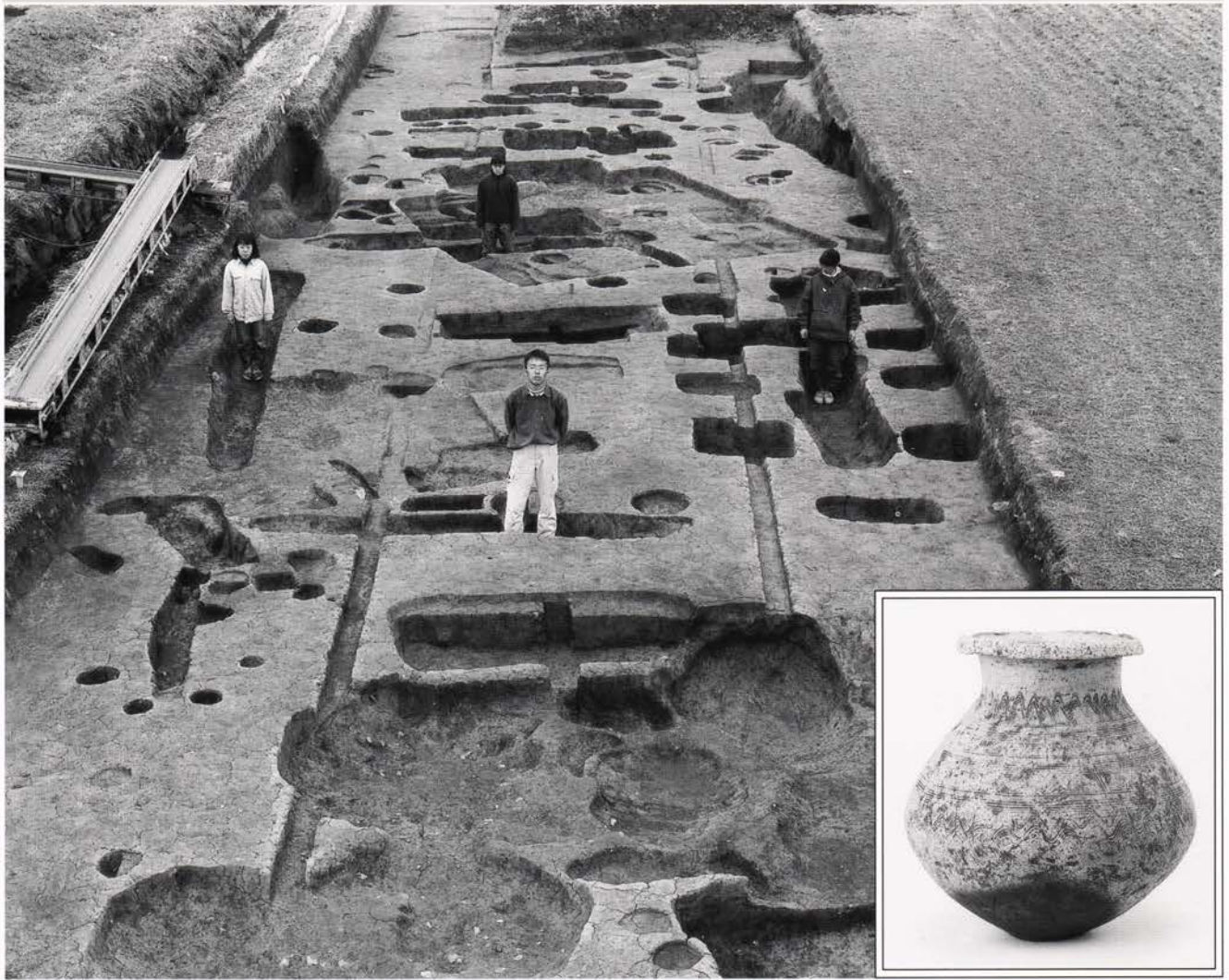
市田齊当坊遺跡の調査で出土した多量の土器や石器は、弥生時代の暮らしぶりをしのばせます。中でも、武器である石剣の出土から、戦いに備えたむらであったことも分かります。

## 弥生びとのとむらい

池上遺跡の方形周溝墓は、一辺の溝を共有していくつもの墓が連結しています。また、埋葬施設まいそう しせつが削られずに残っており、木製の棺ひつぎの痕跡も見出されました。棺は板を長方形の箱形に組んだものですが、葬られた人の骨は残ってはいません。この時期は、副葬品ふくそうひんを持たないものが普通であり、池上遺跡でも副葬品としてはわずかに管玉くだたま1点が見られるだけです。また、石の剣せんで刺し殺された、当時の戦死者の墓と見られる例もありました。



池上遺跡の弥生時代の共同墓地 (八木町教育委員会提供)



池上遺跡の方形周溝墓と出土した弥生土器(高さ約30cm)

当調査研究センターが発掘調査を実施した大山崎町の下植野南遺跡でも、多くの方形周溝墓があまり削られずに、残っていました。中央部に1~2基の埋葬施設を持つものもあります。



溝を接して連結する下植野南遺跡の方形周溝墓群(一辺約10m)

## 王の誕生

岩滝町教育委員会が発掘調査を実施した大風呂南墳墓群は、宮津湾を押さえた有力者の墓と見られます。木製の棺の中には朱が散布され、ガラス製釧くしろ(腕輪)・青銅製釧・管玉・鉄剣12本・玉類が副葬されていました。特にガラス製釧は鮮やかなマリンブルーで、日本での出土は4例目、当時の色合いをとどめるものはこれが唯一のものです(巻頭カラー2参照)。



(岩滝町教育委員会提供)

大風呂南1号墓の埋葬施設(長さ約7m・幅約4m)

## コラム 邪馬台国の時代の丹後

邪馬台国はどこにあったかはさておき、その女王卑弥呼ひみこが活躍していた時期(3世紀)に、丹後には強力な政治権力が芽生えていました。これを特徴付けるものとして、鉄とガラスがあります。鉄は、当時日本列島内で作ることはできず、朝鮮半島から持ち込まれた、非常に貴重なものでした。弥生時代の鉄器の出土量をみると、近畿地方では丹後が最も多いことが確認されます。それは墓に副葬された剣や農具が物語っています。またガラスをみても、丹後で出土した弥生時代のガラス玉の総数は一万点を超え、有数の出土量を誇ります。この鉄とガラスは、大陸文化の影響を色濃くあらわすものと言われており、日本海を通じた大陸との交渉がうかがえます。丹後の遺跡は、今後、どんな発見で私達をおどろかせてくれるのでしょうか？

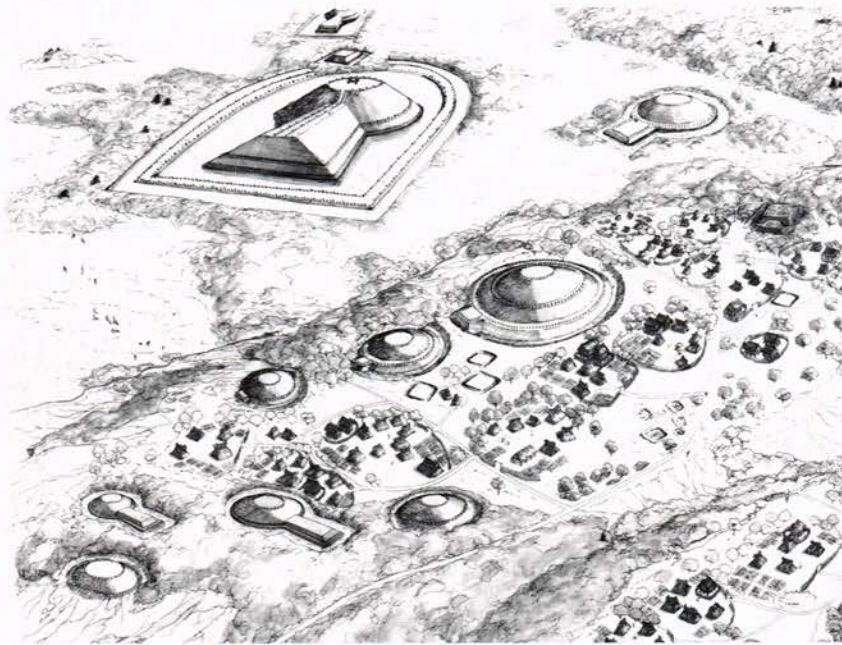


邪馬台国への道のり

# ●●● 古墳時代の王とまつり ●●●

邪馬台国の女王卑弥呼が死んだ時、大きな墓が築かれたと言われています。その墓がどれかは分かりませんが、ほどなく、奈良盆地の東南部、現在の桜井市から天理市にかけての地域に、巨大な前方後円墳が出現します。今から、約1750年前の3世紀中葉のことです。日本列島各地で、古墳という巨大な墓を造り続けた時代、古墳時代のはじまりです。古墳には、前方後円墳・円墳・方墳といった種類があります。古墳は、盛り土や丘陵を加工して築いた塚(マウンド)であり、しばしばその外面に石を葺いたり、埴輪を立てています。その塚の内部には、遺体を納める埋葬施設が築かれています。埋葬施設は石で木製の棺を覆い、蓋石をかけたもの(竪穴式石室)や大きな石を用いて部屋を築いたもの(横穴式石室)、棺を直接地面に埋めたものなどの種類があります。また、武器や装身具、農具などの副葬品を持つものもあります。古墳時代は、古墳の形・規模・副葬品などを研究することで、どのような時代であったかを復原することができます。

古墳時代は、3世紀中葉から7世紀前半にかけての約400年間弱続きました。それを、前期・中期・後期の3つに分けて考えられています。古墳時代前期(3世紀中葉～4世紀後半)は、大和を中心とする政治権力が勢力を拡大し、地方豪族と連合したり支配下におきながら、国づくりを進めていった時代です。前方後円



城陽市久津川古墳群復原想像図 (早川和子氏 画)

墳という日本列島独特の古墳の形は、その政治関係を表現したものとみる考えもあります。この時期には鏡や石製の腕輪などの呪術的な色彩のものが多くことから、被葬者は司祭的なものであったと考えられます。

古墳時代中期(4世紀末～5世紀末)は、大阪平野に仁徳陵古墳(堺市)や応神陵古墳(羽曳野市)などの巨大な前方後円墳が築かれた時代です。大王と呼ばれたこの巨大古墳の被葬者は、中国大陸の南朝と通交し、朝鮮半島や大陸からも多くの渡来人がやってきました。彼らは、金工製品

や登り窯で焼く須恵器という新たな焼き物、乗馬の風習など、その当時、日本になかったものを伝えました。

古墳時代後期(6世紀前半～7世紀前半)は、横穴式石室という大陸から伝来した埋葬施設が急速に日本列島に普及していく時期です。この時期は、地方豪族の反乱が相次ぎ、大和を中心とする連合政権の象徴であった前方後円墳は、規模を縮小し、数も減少していきます。一方、今まで古墳を築くことができなかった、むらの有力者が新たに古墳を築き始め、群集墳と呼ばれる小型の古墳が数多く出現します。かつて、巨大な前方後円墳を、権力の象徴として築いていた有力者たちは、寺院の建立にそれを求めるようになり、こうして、古墳時代は終わりを告げるのです。

## 最古の前方後円墳

椿井大塚山古墳は、山城町に所在する全長189 mの前方後円墳です。この古墳は、1953年に国鉄奈良線の造成工事中に後円部の石室が発見され、三角縁神獸鏡かぶと かんむり32面をはじめとする鏡や鉄製冑・冠・武器などが見つかりました。この古墳は、京都府内最古の前方後円墳の一つで、奈良県の桜井市箸墓古墳はしはかや天理市黒塚古墳くろづかと並んで、古墳時代でも最も古い時期に築かれた前方後円墳です。この古墳から出土した三角縁神獸鏡さんかくぶちしんじゅうきょうの分析によって、大和政権が各地の有力者に三角縁神獸鏡やまと せいけんを配布し、同盟関係の証どうめいとしたことが、研究によって明らかになっています。

平成7～10年度の4か年にわたって山城町教育委員会が実施した発掘調査で、墳丘の形態が明らかになるとともに、その築造時期を示す土器が出土しました。

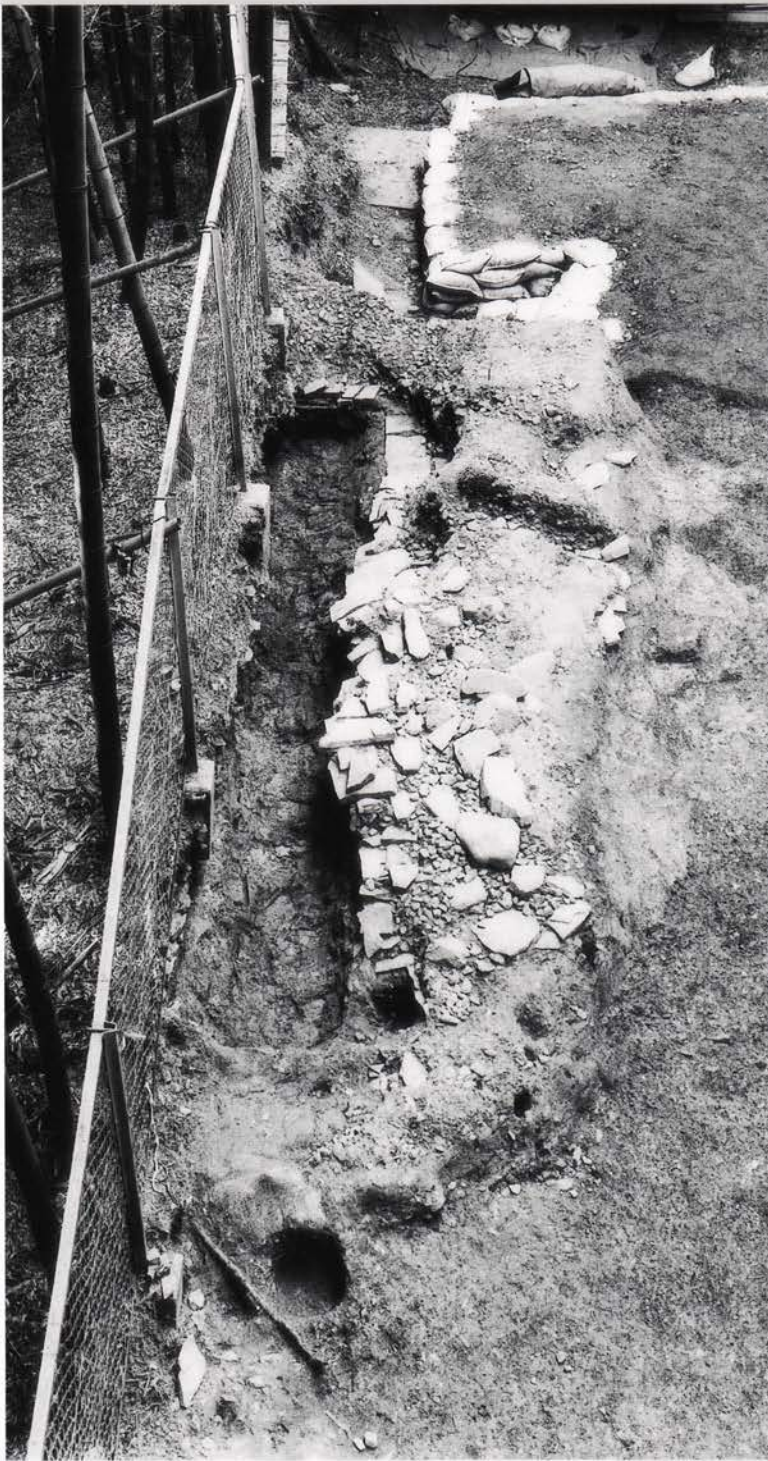


(山城町教育委員会提供)

椿井大塚山古墳の墳形(空撮写真)

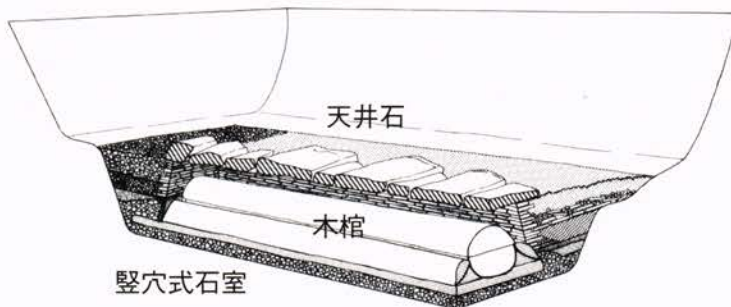
## 竪穴式石室の世界

向日丘陵の竹林の中にある寺戸大塚古墳は、全長95mの前方後円墳です。大正12年に前方部の<sup>ぜんぼう</sup>竪穴式石室の発掘調査が行われ、3面の鏡や石製品など、前期古墳の典型と言える副葬品が出土した、古墳時代研究の中で非常によく知られた古墳です。このたび、約半世紀ぶりに(財)向日市埋蔵文化財センターによって前方部の<sup>ぜんき</sup>竪穴式石室が調査され、石室の細かな構造が判明しました。



寺戸大塚古墳の竪穴式石室(全長約6m)と復原図  
((財)向日市埋蔵文化財センター提供)

古墳の墳頂部



竪穴式石室



(向日市教育委員会提供)

寺戸大塚古墳の朝顔形埴輪(高さ約0.8m)



## 北の古墳・南の古墳

古墳時代中期には特徴的な古墳が府内各地に築かれます。ここでは、大宮町清漬<sup>せいづけ</sup>7号墳・福知山市武者ヶ谷<sup>むしゃ たに</sup>1号墳・亀岡市坊主塚<sup>ぼうずづか</sup>古墳・精華町北尻<sup>きたじり</sup>遺跡・八幡市女郎花<sup>おみなえし</sup>遺跡などを紹介します。



(大宮町教育委員会提供)

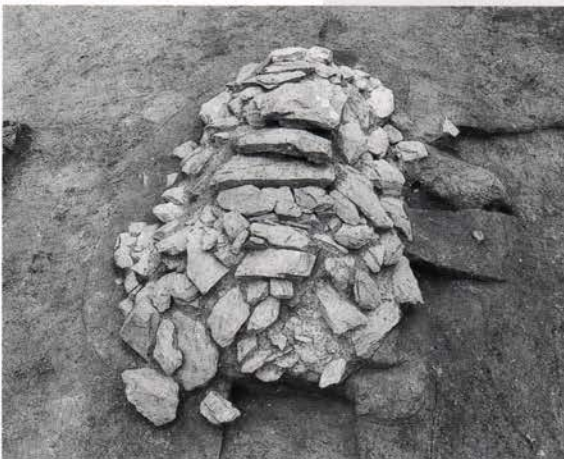
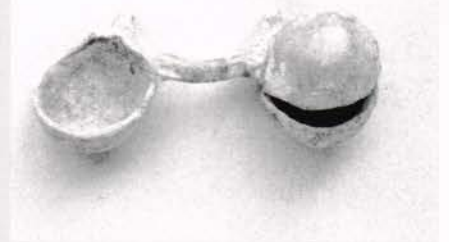
### 大宮町清漬7号墳

この古墳は、大宮町教育委員会が発掘調査を行った径約19mの規模をもつ円墳です。埋葬施設の状況ははっきりしませんが、三環鈴<sup>さんかんれい</sup>が丹後地域では初めて見つかかり、付近の古墳からは円筒埴輪も出土しました。



### 大宮町清漬古墳群

(上：古墳全景  
中：土器と埴輪  
下：三環鈴(馬に付けた装飾))



### 福知山市武者ヶ谷1号墳

(上：蓋石が乗ったままの状態  
下：蓋石を取り去った状態)  
(福知山市教育委員会提供)



### 福知山市武者ヶ谷1号墳

福知山市教育委員会による発掘調査では、石棺を蓋石で覆った埋葬施設が見つかりました。その中からは、鏡や玉類などが出土しています。



武者ヶ谷1号墳出土鏡(径約8cm)



坊主塚古墳の全景(左)と埴輪(右上：鹿の線刻 右下：鶏形埴輪)

(亀岡市教育委員会提供)

### 亀岡市坊主塚古墳

亀岡市の西北部、池尻にある坊主塚古墳<sup>かっちゅう</sup>は、甲冑や鏡などが出土した5世紀後半の方墳<sup>ほうぼん</sup>で、南丹波を代表する古墳の一つです。平成10年度は周囲の濠<sup>ほり</sup>の部分が亀岡市教育委員会によって調査され、多量の円筒埴輪<sup>にわとり</sup>などが出土しました。その中には愛らしい鶏形埴輪もあります。



(八幡市教育委員会提供)

女郎花遺跡の埴輪出土状況

### 八幡市女郎花遺跡

八幡市の松花堂公園<sup>しょうかどう</sup>に隣接する女郎花遺跡<sup>にわとり</sup>は古墳時代の集落跡として知られていますが、八幡市教育委員会による平成10年度の発掘調査では、調査地の一画から埴輪がまとまって出土しました。



### 精華町北尻遺跡

精華町教育委員会の発掘調査により、精華町北尻遺跡で見つかった方墳は、上部が削平されて水田の下に埋もれていましたが、周溝内から出土した土器により、4世紀末～5世紀前半にかけて築造された古墳であることが判明しました。

北尻遺跡の方墳(精華町教育委員会提供)

## 渡来人がやってきた

京都府の南部、精華町で当調査研究センターが発掘調査を行った森垣外遺跡は、5世紀に朝鮮半島から日本列島に渡来した人々の集落です。ここでは、おおかべ大壁住居という、当時の日本列島に無かった形式の住居跡が見つかりました。大壁住居とは、家の輪郭に合わせて地面に溝を掘り、多数の柱を立てて柱を壁で塗り込めるものです。また、森垣外遺跡では、陶質土器とうしつ ときと言う朝鮮半島の土器や鍛冶かじ(鉄製品)生産を行った跡も見つかっています。

亀岡市余部遺跡では、古墳時代の埋葬施設に副葬された鉄鋌(鉄ののべ板)が、当調査研究センターの調査によって、京都府内ではじめて出土しました。



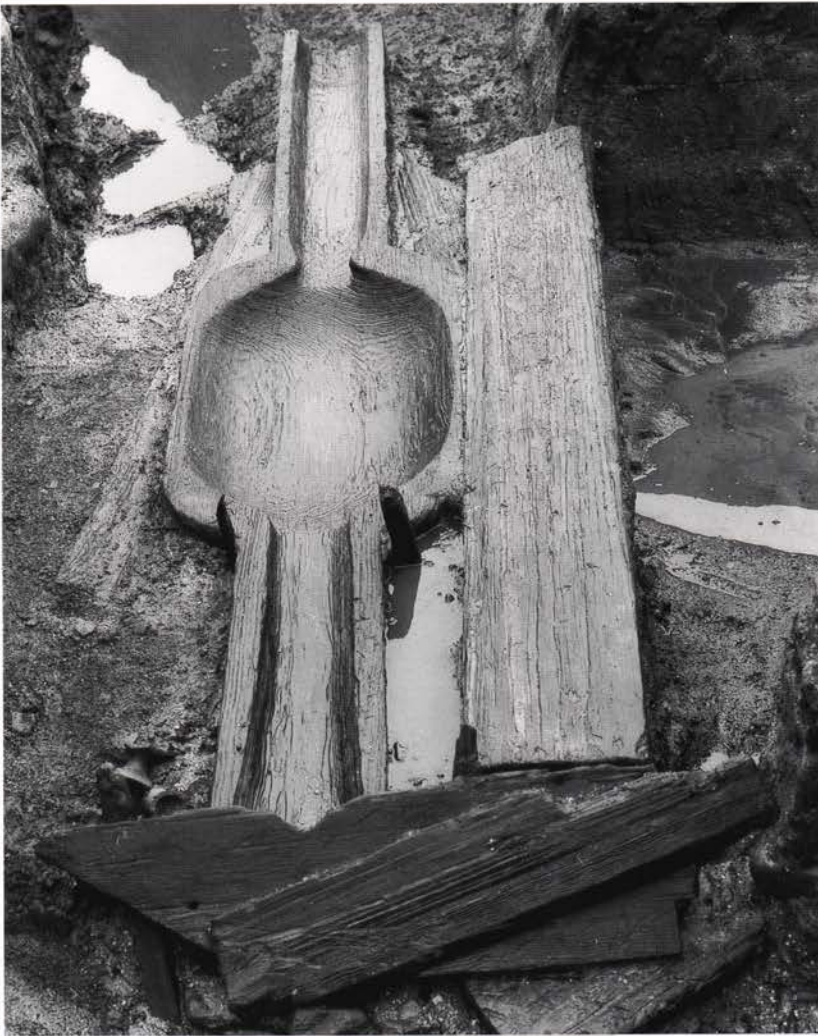
余部遺跡出土の鉄製品



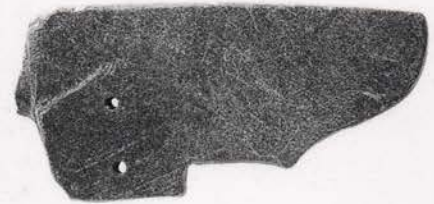
森垣外遺跡の大壁住居跡

## まつりとまつりごと

網野町浅後谷南遺跡は、当調査研究センターの発掘調査で、古墳時代の首長のまつりの場であったことがわかりました。ここでは、多量の土器・木製品・木製の導水管どうすいかんが出土しました。導水管は、浄水施設の一部として用いられたもののようです。また、まつりに使われた刀子形とうすの石製品なども出土しています。



浅後谷南遺跡出土の導水管(長さ約3.5m)



刀子形の石製品(長さ5.5cm)



浅後谷南遺跡出土の木製品出土状況

舞鶴湾の入り口付近にある千歳下遺跡は、海のまつりのようすを教<sup>さいし いせき</sup>えてくれる祭祀遺跡です。ここからは、鏡をペンダント状に加工したものや、滑石<sup>かっせき</sup>や碧玉で作られた玉類、小鉄片・多量の土器類が見つかりました。5世紀中葉～後半のものです。舞鶴湾を往来し、外洋へと漕ぎ出ていく船が安全祈願をした遺跡と見られます。京都府内では初めて見つかった海の祭祀遺跡です。



出土した鏡(上：長さ9.6cm 下：長さ8.2cm)

孔を開けてペンダント状に加工した鏡は京都府内で2例目の出土となります。



多量の遺物が出土した土坑 (舞鶴市教育委員会提供)

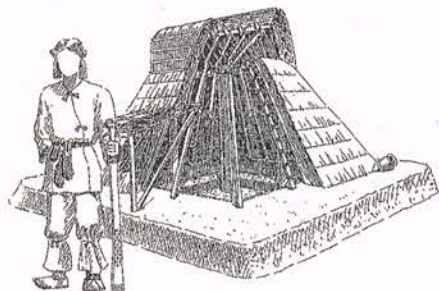


出土した玉類



千歳下遺跡遠景(舞鶴市教育委員会提供)

## 古墳時代の住まい



古墳時代の竪穴式住居の復原図

『古墳なぜなにブック』大阪府立近つ飛鳥博物館こども展示図録より。

古墳時代の人々は、竪穴式住居と呼ばれる形式の住居に住むのが一般的でした。これは地面に方形の穴を掘り、そこに4本の柱を立てて、その上に屋根を組み上げたものです。外観を見ると、屋根が地面近くまで葺き下ろされ、壁はほとんど見えません。竪穴式住居は、縄文時代からありますが、古墳時代から全国的に方形のものに変わります。また、5世紀後半になると壁際に竈かまどが取り付くものになります。そして、平安時代までには竪穴式住居はほとんどすたれてしまいます。

### 長岡京市雲宮遺跡

この遺跡は、乙訓地域の代表的な古墳時代のむらの一つです。(財)長岡京市埋蔵文化財センターの調査によって、竪穴式住居跡・井戸などが見つかり、当時の人々の生活空間がよみがえりました。また、祭祀に使った土器や木製品などにも目を見はるものがあります。



(長岡京市教育委員会提供)

古墳時代のむら(左:全景 右上:竪穴式住居跡(一辺約8m) 右下:井戸)



八木町池上遺跡で見つかった古墳時代の方形竪穴式住居跡 (八木町教育委員会提供)

### 八木町池上遺跡

この遺跡では、弥生時代の調査でも多くの成果があがりましたが、八木町教育委員会の発掘調査によって、総数56基の竪穴式住居跡が見つかり、古墳時代にも集落が営まれていたことが分かりました。



下植野南遺跡の竪穴式住居跡

### 大山崎町下植野南遺跡

当調査研究センターの発掘調査によって、大山崎町下植野南遺跡でも古墳時代の竪穴式住居跡が数多く見つかりました。壁際(写真上方)には竈が造られています。

### 弥栄町奈具岡遺跡

京都府北部地域には、しばしば丘陵斜面を加工して住居を造る例がみられます。当調査研究センターの発掘調査で確認したこの奈具岡遺跡の竪穴式住居跡もその一つで、斜面側の床面は流失してしまい、住居の約半分が残っていました。



山のむらの住居跡(弥栄町奈具岡遺跡)

## むらの有力者の墓



京都府北部では、集落を見下ろす丘陵上に木棺を納めた古墳が多く築かれています。その大部分は土器か少量の鉄製品を副葬するもので、むらの有力者が葬られた墓と考えられています。

## 大宮町左坂古墳群・舞鶴市川向古墳群



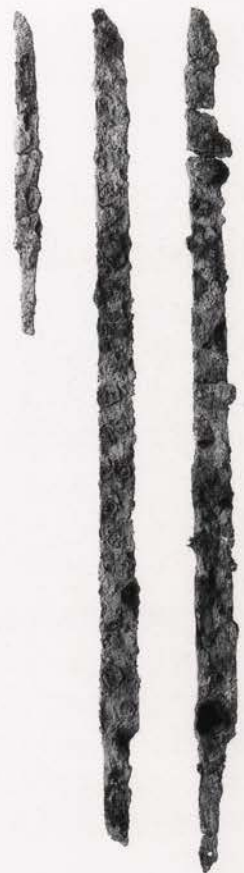
当調査研究センターが発掘調査を実施した2つの古墳群を紹介します。大宮町左坂古墳群は、丹後地域最大の古墳群ですが、平成10年度に調査された1基には鉄刀を副葬しています。また、舞鶴市川向古墳群では、古墳時代前期前半の共同墓地が見つかっています。

## むらの有力者たちの墓

(上：大宮町左坂古墳群 下：舞鶴市川向古墳群)



川向古墳群出土土器  
(小児用の棺として使用されていた)



むらおさたちの鉄刀



## 古墳の終わり

古墳時代後期の古墳として、久美浜町谷垣3号墳と城陽市黒土1号墳の調査成果を紹介します。京都府教育委員会による谷垣3号墳の発掘調査では、かわぶくろがたへい革袋形瓶という大変珍しい形の土器が割れずに出土しました。また、城陽市教育委員会による黒土1号墳の発掘調査では、石室の入口部分という限定された範囲の調査でしたが、大型の横穴式石室であることが確認されました。



(城陽市教育委員会提供)

石室入口部から見た黒土1号墳



第1・2主体部全景(左)と革袋形瓶出土状況(右) (京都府教育委員会提供)

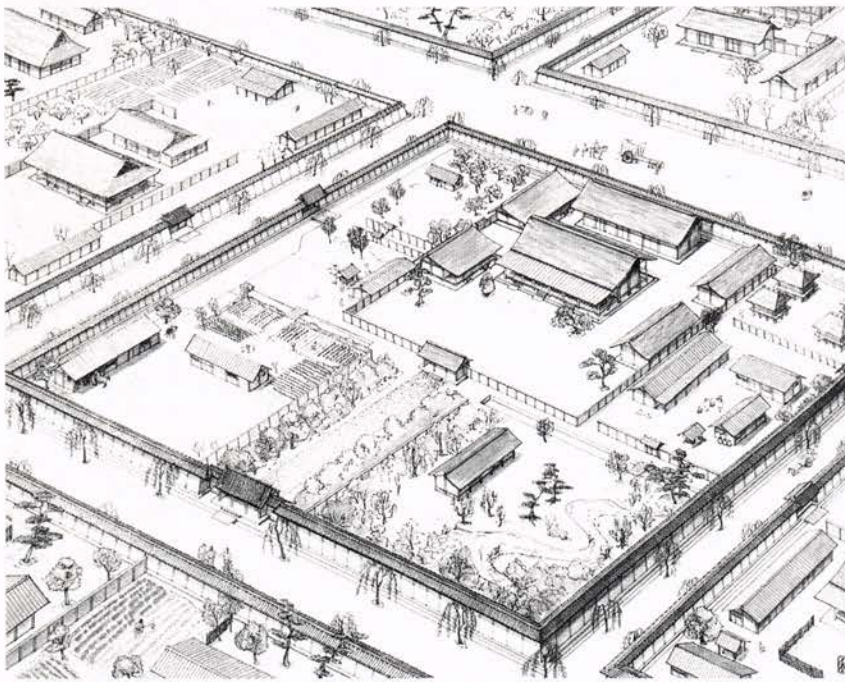


# みやこの風景

古墳時代が終焉を迎えた7世紀になると、歴代の天皇は飛鳥の地(現在の奈良県明日香村を中心とする)に集中して宮を営むようになりました。摂政として聖徳太子が活躍した頃に推古天皇(593～628)が即位した豊浦宮や、大化改新のクーデターがあった舒明天皇の飛鳥板蓋宮は其中でも著名です。

その後、孝徳天皇の難波宮(大阪府)・天智天皇の大津宮(滋賀県)などを経て、7世紀の終わり頃には藤原京が造営されました。藤原京は、文献上では「新益京」と記され、天皇の住まいや貴族が政務を行う施設が造られた「宮」の周囲に、条坊と呼ばれる碁盤の目状に区画された街区(京域)を備えた、我国で最初の本格的な都城でした。そしてこれ以後、平城京、長岡京、平安京へと遷都されていきました。ただ、このうち奈良時代の中頃には、一時、平城京を離れ、恭仁京・難波京そして再び平城京へと短期間に遷都が繰り返され、政治が不安定となった時期もありました。京都府内には、恭仁京跡・長岡京跡・平安京跡という三つ古代の都城遺跡あり、昨年度も各京跡で発掘調査が行われました。

恭仁京は、奈良時代の中頃、740年からおよそ3年あまりの間に聖武天皇によって営まれたものです。その遺跡は、現在の相楽郡加茂町字例幣に「宮」を置き、周囲の木津町から山城町にかけて京域が広がっていたと考えられています。わずか3年あまりと短命の都だったことから、長らくその実体は不明でした



京の風景 (早川和子氏 画)

が、昭和48年度から行なわれている京都府教育委員会や加茂町教育委員会による発掘調査で徐々にその様相が明らかになってきました。なお、国分寺建立や大仏造立の詔や壘田永年私財法など、重要な政策が出されたのは、都がここ恭仁京にあった時期だったのです。

長岡京は、西暦784年に桓武天皇によって、平城京から遷都された都です。中心部としての「長岡宮跡」は現在の向日市にあり、その周囲の「長岡京」の範囲はさらに長岡京市・京都市・大山崎町に及んでいます。平安京へ遷都されるまでのわずか10年間の都でしたが、これまでの発掘調査でかなりの範囲が完成していたことが明らかになっています。

長岡京へ遷都して10年、西暦794年に都はさらに平安京(京都市)へと遷されました。平安京は、皆さんもご承知のとおり、千年の都といわれ、鎌倉時代・室町時代・江戸時代と武士の世の中になっても、長期にわたって都として存在してきました。このため、発掘調査を行なうと、平安時代から江戸時代という長期にわたる時期の生活の痕跡が幾重にも重複して確認されます。

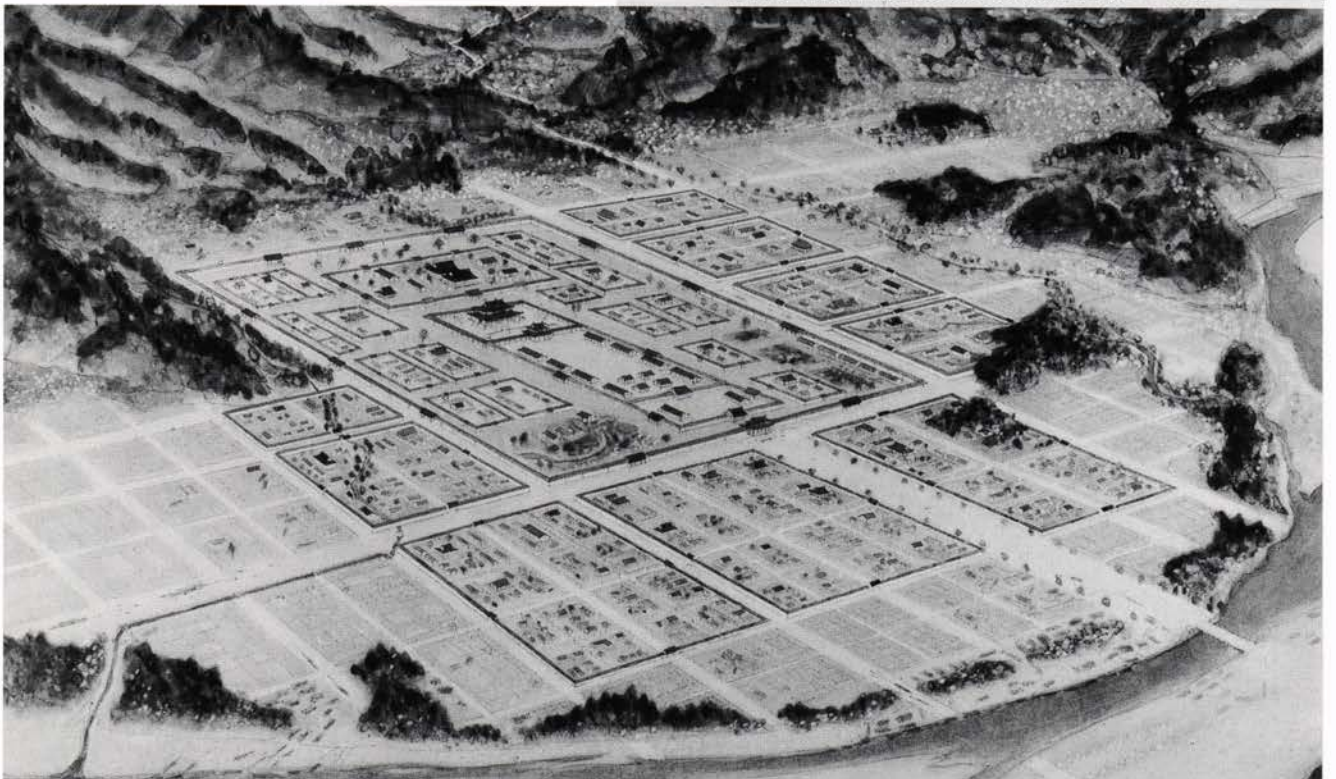
## 恭仁のみや

くに  
恭仁宮跡では、京都府教育委員会の調査で、天皇が住まいした内裏とよばれる地域を囲っていた堀の痕跡を示す柱列が確認されました。調査で確認されたのは内裏の北辺を区画する堀跡です。直径が30cmをこえる太い柱を立てるために、一辺1mをこえる大きな方形の穴が掘られており、これが約3m間隔で一直線に並んで見つかりました。

なお、この堀跡が囲っていた正確な範囲は不明確ですが、堀に囲まれた中には天皇が住まいしたと思われる大型の建物跡が、これまでの発掘調査で確認されています。



恭仁宮で発掘調査された  
柱列と出土した瓦  
(京都府教育委員会提供)



恭仁宮の想像復原図

(加茂町教育委員会提供)

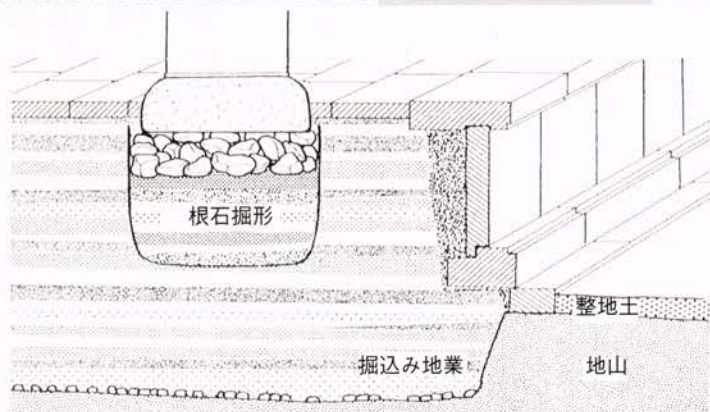
## 長岡京のおおみやびと



長岡京跡では、長岡宮の宮城門の一つが、また右京域内で大型の倉庫跡が確認されました。

### 長岡宮宮城門跡

長岡宮の宮城門跡は、(財)向日市埋蔵文化財センターの調査で確認されました。ただし、そのほとんどは後世に削りとられ、基礎地業が確認されたにすぎませんでした。門跡の位置は、宮の東辺の北寄りにあたります。宮の東辺には平城宮で三門、平安宮で四門が開いていたことが確認され、それぞれに固有の名称が与えられていました。しかし、長岡宮の場合はいくつの門があったか明確でなく、現状では門跡の名称を特定することができません。そこで、東面北第1門と呼ばれることになりました。



宮城門跡全景(上)と門の下部構造の復原図(下)  
( (財)向日市埋蔵文化財センター提供 )



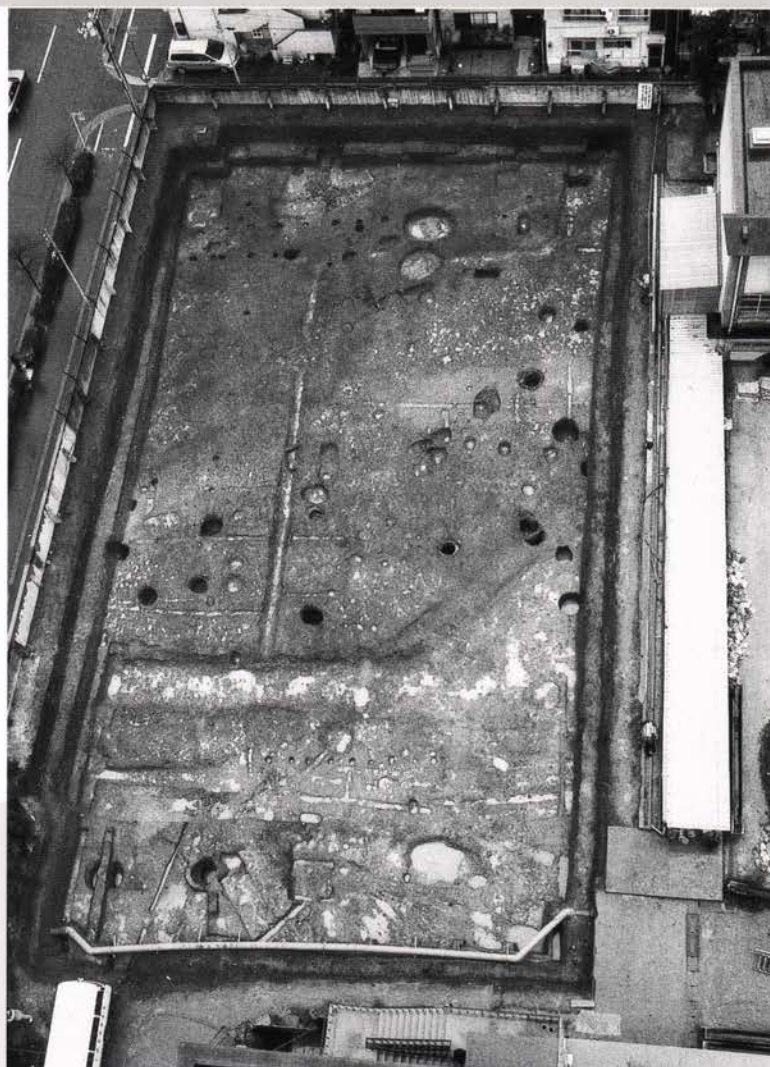
長岡京右京で見つかった倉庫跡

### 長岡京跡

右京五条三坊一町(新条坊では右京五条三坊三町)で当調査研究センターが行った発掘調査では、立派な倉庫跡が確認されました。直径30cm以上の柱を立てるために設けた1m四方ほどの方形の柱穴が、1.8m間隔で東西・南北ともに4列(ともに3間)確認されたものです。全ての柱筋にも柱穴が並んでいる(総柱建物と呼ばれる)ことから、重い物を納めた倉庫の跡と推定されました。

## 埋もれた平安京

平安京跡では、京都府立朱雀高<sup>すざく</sup>校の敷地内において当調査研究センターが行った発掘調査で、二条大路と平安宮の南<sup>へいあんきゅう</sup>辺部分が確認されました。平安宮の南<sup>ついで</sup>辺に設けられた築地塀に沿って掘られていた堀跡(幅約3m)が検出されたのです。また、この堀はその南側にあった二条大路の北側側溝<sup>そっこう</sup>を兼ねていたことも分かり、調査区の南側半分が幅25mの二条大路の道路面だったことも確認されました。

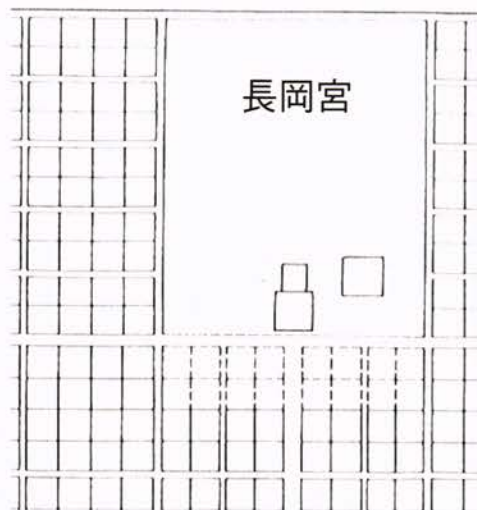


朱雀高校の下から検出された平安宮跡

## コラム 都城と条坊

古代の都は、天皇の住まい(内裏)や天皇や役人が政務を行なう場を含む「宮」(大内裏)と呼ばれる部分と、碁盤の目のように東西・南北に道路がとおり、整然と区画された街区としての「京」と呼ばれる部分によって構成されます。

奈良平城京や京都平安京などでは、「京」域の北<sup>へいあんきゅう</sup>辺中央に「宮」を置いていました。また「京」域は、北から順に南へ一条～九条に、東西は朱雀大路によって左右に分ち(西側が右京、東側が左京)、さらにそれぞれが一坊～四坊(中央から外側へ)に区切られていました。条や坊の境には幅の広い道路(大路)が設けられ、これに囲まれた一つの区画は右京三条二坊のように呼称されます。また、この一区画内も道路によって東西・南北とも四分割され、これが「京」内の区画の最少単位である「町」または「坪」をなしていたとされています。



長岡宮と条坊

## 古代の役所・離宮・駅家

古代には、さまざまな役割をもった公的な施設が各地に設けられていました。例えば、現在の都道府県や市町村に相当していた国・郡という行政単位には、国府こくふと呼ばれる国の役所や郡衙ぐんがと呼ばれる郡の役所などが設けられていました。また、道路に関してしてみると、都と全国各地とを結ぶ幹線道路が整備されていましたが、それぞれの道路にはおよそ16km毎に駅家うまやと呼ばれる中継基地が設けられていました。

石組み溝瓦出土状況  
(大山崎町教育委員会提供)

### 大山崎遺跡群

大山崎遺跡群とは、平安時代を中心として大山崎の地に営まれた第3次山城国府跡、河陽離宮跡、さらには平安時代の山陽道に設けられた山崎駅家などが重複して存在する広大な遺跡の総称です。平成10年度に大山崎町教育委員会によって行われた当地の発掘調査では、平安時代前期(9世紀前半)頃の礎石建物の跡と、その周囲を巡る石組み溝などが見つかりました。時期的みて河陽離宮もしくは山崎駅家に関係した施設の一画と考えられています。

調査地全景(大山崎町教育委員会提供)



二又遺跡掘立柱建物跡検出状況 (京田辺市教育委員会提供)

### 京田辺市二又遺跡

近鉄三山木駅付近にある二又遺跡を、平成10年度に京田辺市教育委員会が発掘調査したところ、平安時代の初め頃(9世紀前半)の掘立柱建物跡や井戸が見つかりました。一帯は、奈良時代の官道(山陽道と山陰道の併用道)に設けられた山本駅家に推定されてきたことから、駅家関連施設の一部かと考えられました。しかし、この建物跡の時期には既に山本駅家は廃止されており、これらを山本駅家に結びつけるのは難しいようです。

### 木津町樋ノ口遺跡

木津町樋ノ口遺跡では、平成4年度に当調査研究センターが行った発掘調査で大規模な築地(土塀)の跡が確認されるとともに、奈良時代の古瓦や釉薬をかけた土器などがたくさん出土しました。この調査成果から遺跡の性格として、離宮跡か、寺院跡かという論争が起きました。平成10年度には、木津町教育委員会によって、樋ノ口遺跡の一画が発掘調査され、「論争に終止符が打たれるのでは」との期待がもたれました。調査の結果は、残念ながら、遺跡の東端を区画していた築地の痕跡と掘立柱建物跡が数棟見つかったにすぎず、論争は決着しませんでした。



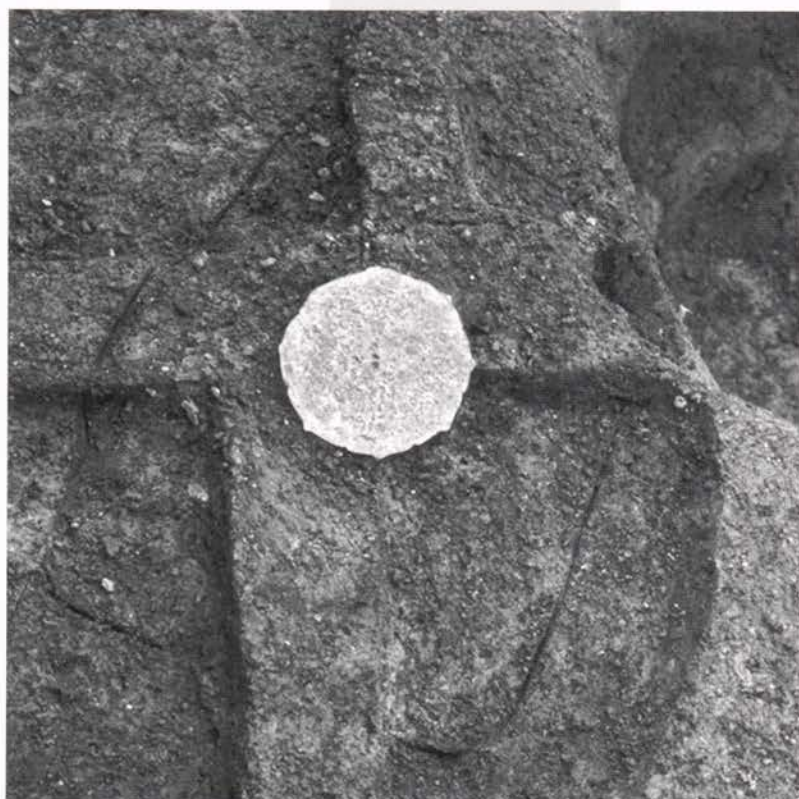
樋ノ口遺跡調査区全景 (木津町教育委員会提供)



太田遺跡の掘立柱建物跡

### 亀岡市太田遺跡

当調査研究センターが発掘調査を行った太田遺跡では、奈良時代の村が見つかりました。一般的な村に居住した人々の家は、先に紹介した古代の役所などの建物跡と比べると規模が小さく、30～40cm四方の方形の柱穴が長辺に4個(3間)、短辺に3個(2間)並ぶ程度のもので、柱穴の間隔も1.8m前後となります。太田遺跡では、こうした建物跡が合計8棟確認されました。



浅後谷南遺跡八稜鏡出土状況(鏡の直径約9 cm)

### 網野町浅後谷南遺跡

古墳時代の項目で紹介した浅後谷南遺跡では、飛鳥時代から平安時代の掘立柱建物跡や柵列・溝なども見つかりました。調査範囲内で確認した建物跡は17棟以上になりますが、さらに調査範囲外へ広がっています。また、出土遺物の中に、緑釉陶器や墨書土器のほか、石帯などが認められ、平安時代の土坑内からは、八稜鏡と呼ばれる銅鏡が出土しました。これらの建物跡は単なる一般集落ではなく、公的な施設の一部であった可能性が高いと考えられます。



## 古代の寺と墓

古代寺院は、それまでの古墳にかわる権力の象徴として有力氏族によって造られたと言われます。それは、大きなマウンドをもつ古墳が造営されなくなるのにかわって、畿内を中心として全国各地に古代寺院が建立されはじめたからです。

奈良・平安時代になると、法令で墳墓の大きさが規制されたりしたこともあり、貴族達は古墳時代のような大きな墓を築かなくなりました。また火葬の風習もひろまりました。



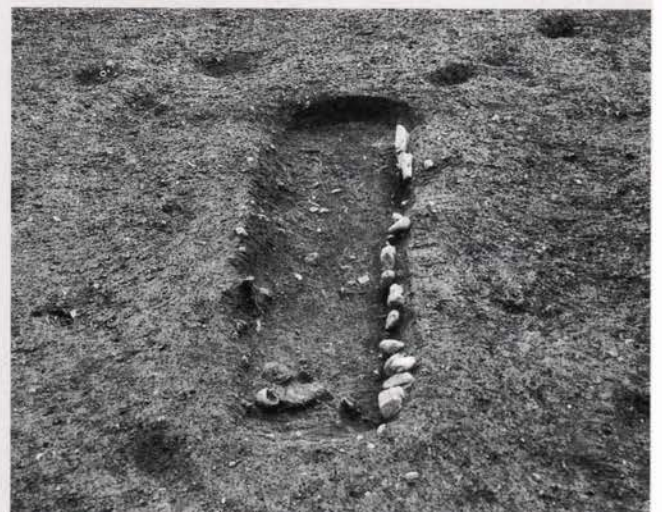
志水瓦窯の全景 (八幡市教育委員会提供)

### 八幡市志水瓦窯跡

志水瓦窯跡が八幡市教育委員会によって発掘調査されました。この遺跡は、周辺に位置する志水廃寺(7世紀後半)へ供給する瓦を焼いた窯跡です。窯跡は、丘陵の斜面にトンネル状の穴を掘った<sup>あながま</sup>窖窯

### 城陽市芝山遺跡

この遺跡では、当調査研究センターの調査で平安時代初め頃の木棺墓が確認されました。墓は、丘陵の尾根筋に営まれており、かなり削り取られていましたが、長さ2.3m・幅0.7mの長方形の墓穴に、木棺が納められていたことが確認されました。また、棺の中からは、死者の枕に利用された土師器の皿が2点のほか、灰釉陶器の瓶子(壺)1点、石帯(巡方)などが見つかりました。



芝山遺跡の古墓



(宇治市教育委員会提供)

妙見遺跡出土の蔵骨器

### 宇治市妙見古墓

宇治市教育委員会の発掘調査で見つかった妙見古墓は、奈良時代の火葬墓です。丘陵斜面の一面におよそ1m四方の墓穴を掘り、その中に火葬骨を納めた須恵器の壺が置かれていました。壺のまわりには安定をよくするために丁寧に石を配していましたが、葬られた人の氏名や役職を記した墓誌や副葬品などは見つかりませんでした。

平安時代の終わり頃には、お釈迦様がなくなって1000年がたつと世の中が乱れるという末法思想まっぽうが広がりました。この考え方から、死後の世界での幸せを願う浄土信仰が広まりました。そして、経典を埋納し、後世に残そうとする営みが行われました。実際は、経典を銅製や鉄製などの筒状の容器に入れ、山の上などに埋納するものです。これを、経塚と呼んでいます。



天台南谷遺跡で出土した経塚 (舞鶴市教育委員会提供)

### 舞鶴市天台南谷経塚

この経塚は、舞鶴湾を見下ろす丘陵の上に、営まれていたものです。ただその多くは、すでに盗掘を受けてしまっていたため、舞鶴市教育委員会の調査では1基のみが良好な状態で確認されたにすぎませんでした。また、経筒のなかには、ひからびてはいますが経典が残っていました。今回は、それを調べるために撮影されたCTスキャンの映像をあわせて展示しています。現代医学の最新技術が、考古学に活用されたためずらしい例といえるでしょう。

## 京都の大仏

方広寺跡の調査は、京都国立博物館の敷地内で、(財)京都市埋蔵文化財研究所によって行われました。方広寺は、1586(天正14)年に豊臣秀吉によって造営が開始されたもので、高さが約18mもある大仏が安置されていました。また旧境内は、南北約260m・東西約210mという広大な範囲に及んでいたと考えられています。

今回の調査では、方広寺の南辺に設けられた石垣、さらに南門とこれに取り付いていた回廊の痕跡が確認されました。また、大仏殿にふさわしい大型の軒瓦や、大仏の鑄型ではないかと思われる非常に大きな鑄型の破片なども出土しました。



((財)京都市埋蔵文化財研究所提供)

京都国立博物館の下から見つかった方広寺の石垣



((財)京都市埋蔵文化財研究所提供)

方広寺の屋根を飾っていた瓦

## 京都市二ノ瀬町出土の埋蔵銭

突然、裏山などから地中に埋納された多量の古銭が発見されることがあり、これを備蓄銭と呼んでいます。特に、鎌倉時代の終わりから室町時代の初めの世情が乱れた時期には、ひんぱんに蓄えた銭を埋納したようです。昨年、京都市左京区鞍馬二ノ瀬町にある民家の裏山で発見された多くの古銭もその一つです。その量はおよそ4万枚に及ぶという膨大な量でした。

古銭は石垣工事中に発見され、京都市埋蔵文化財調査センターが、発見個所を発掘調査しました。その結果、これらが曲物という桶のような容器に入れて埋納されていたことが確認されました。古銭はいずれも中国からの渡来銭で、五銖銭(西暦24年)～咸淳元寶(1265年)などがあり、鑄造時期は長期にわたるものが含まれています。



出土直後の二ノ瀬埋蔵銭(京都市埋蔵文化財センター提供)

# 展示品リスト

遺跡名	遺物名	点数	時代	保管者
浅後谷南遺跡	木樋	1	4世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	木製形代	10	〃	〃
	土師器	12	4～9世紀	〃
	須恵器	1	6世紀	〃
	墨書土器	1	9世紀	〃
	緑釉陶器	3	〃	〃
	八稜鏡	1	〃	〃
奈具岡遺跡	土師器	5	5世紀	〃
左坂古墳群	須恵器	4	6世紀	〃
	玉類	一括	〃	〃
大風呂南墳墓群	ガラス釧 (レプリカ)	1	2世紀	岩滝町教育委員会
	銅釧	2	〃	〃
	玉類	1連	〃	〃
清瀆古墳群	須恵器	5	5～6世紀	大宮町教育委員会
	円筒埴輪	1	〃	〃
谷垣3号墳	須恵器	9	6世紀	京都府教育委員会
川向古墳群	土師器	2	3世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
落合遺跡	弥生土器	5	2～3世紀	綾部市教育委員会
武者ヶ谷2号墳	銅鏡	1	5世紀	福知山市教育委員会
	玉類	1連	〃	〃
千歳下遺跡	破鏡	1	5世紀	舞鶴市教育委員会
	玉類	2連	〃	〃
池上遺跡	須恵器	6	5～6世紀	八木町教育委員会
	弥生土器	5	前1世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	玉作り関係遺物	一括	〃	八木町教育委員会
太田遺跡	須恵器	4	8世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	土師器	2	〃	〃
余部遺跡	鉄鋌	2	5世紀	〃
坊主塚古墳	円筒埴輪	1	5世紀	亀岡市教育委員会
	鶏形埴輪	1	〃	〃
杉北遺跡	須恵器	6	6世紀	〃
	土師器	2	〃	〃
平安京跡	軒丸瓦	4	10～12世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	軒平瓦	4	〃	〃
方広寺跡	軒丸瓦	1	16世紀	京都市埋蔵文化財研究所
	軒平瓦	1	〃	〃
	鑄型片	1	〃	〃
	フイゴ羽口	1	〃	〃
二ノ瀬町埋蔵銭出土地	古銭	1000	14世紀	京都市
長岡宮跡	軒丸瓦	2	8世紀	向日市埋蔵文化財センター
	軒平瓦	2	〃	〃
雲宮遺跡	須恵器	3	3～6世紀	長岡京市埋蔵文化財センター
	土師器	5	〃	〃
長岡京跡	須恵器	4	8世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	土師器	2	〃	〃
大山崎遺跡群	軒丸瓦	3	9世紀	大山崎町教育委員会
	軒平瓦	3	〃	〃

下植野南遺跡	弥生土器	5	前1世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	須恵器	6	6世紀	〃
	土師器	1	〃	〃
妙見古墓	須恵器	2	8世紀	宇治市教育委員会
黒土1号墳	須恵器	8	6世紀	城陽市教育委員会
	土師器	1	〃	〃
	土師器	2	9世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
芝山遺跡	灰釉陶器	1	〃	〃
	石帯	1	〃	〃
	弥生土器	5	前2～1世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
市田齊当坊遺跡	石剣	10	〃	〃
	玉作り関係遺物	一括	〃	〃
	円筒埴輪	2	4世紀	八幡市教育委員会
女郎花遺跡	朝顔形埴輪	1	〃	〃
	丸瓦	1	7世紀	〃
志水瓦窯跡	軒丸瓦	2	〃	〃
志水廃寺	軒平瓦	1	〃	〃
	古銭	2	8～9世紀	京田辺市教育委員会
	土師器	2	9世紀	〃
二又遺跡	灰釉陶器	5	〃	〃
	須恵器	4	5世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	土師器	3	〃	〃
	陶質土器	1	〃	〃
森垣外遺跡	勾玉	1	〃	〃
	石製模造品	2	〃	〃
	土師器	8	5世紀	精華町教育委員会
	軒丸瓦	2	8世紀	木津町教育委員会
北尻遺跡	軒平瓦	3	〃	〃
	軒丸瓦	1	8世紀	京都府教育委員会
樋ノ口遺跡	文字瓦	1	〃	〃

## 展示品リスト

遺跡名	遺物名	点数	時代	保管者
浅後谷南遺跡	刀子形模造品	1	古墳時代	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	木製品	5	古墳時代	〃
	竪櫛	1	古墳時代	〃
	八稜鏡	1	中世	〃
横枕遺跡	土器・陶磁器(緑釉陶器・青磁ほか)	8	奈良～平安	〃
	銅製帯金具	1	奈良～平安	〃
奥大石2号墳	蛇行剣	1	古墳時代	綾部市教育委員会
青野遺跡	石小刀	2	弥生時代	〃
	石鏃	3	弥生時代	〃
私市円山古墳	甲冑	1	古墳時代	〃
	武器類	3	古墳時代	〃
	玉類	一括	古墳時代	〃
大風呂南墳墓	ガラス釦	1	弥生時代	岩滝町教育委員会
	銅釦	4	弥生時代	〃
三河宮ノ下遺跡	玉類	一括	弥生時代	〃
	土偶	1	縄文時代	京都府立丹後郷土資料館
左坂経塚	石製装飾品	7	縄文時代	〃
	鏡	1	中世	大宮町教育委員会
	経筒外容器	2	中世	〃
左坂C21号墳	振文鏡	1	古墳時代	〃
左坂D8号墳	玉類	一括	古墳時代	〃
通り2号墳	玉類	一括	古墳時代	京都府埋蔵文化財調査研究センター
阿婆田窯跡群	環状平瓶	1	奈良～平安	〃
左坂墳墓群	玉類 一括	一括	弥生時代	京都府立丹後郷土資料館
余部遺跡	鉄てい	3	古墳時代	亀岡市教育委員会
	玉作り関係資料	一括	弥生時代	〃
太田遺跡	石剣	1	弥生時代	〃
北金岐遺跡	弥生土器(蔓巻)	1	弥生時代	〃
千代川遺跡	有舌尖頭器	1	縄文時代	〃
	墨書土器	6	奈良～平安	〃
	木簡	1	奈良～平安	〃
	けつ状耳飾り	1	縄文時代	〃
	石帯	1	奈良～平安	〃
鹿谷遺跡	石剣	1	弥生時代	〃
	有舌尖頭器	1	縄文時代	〃
篠窯跡群	須恵器、	8	奈良～平安	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	緑釉陶器	5	奈良～平安	〃
温江遺跡	木製梯子	1	弥生時代	加悦町教育委員会
蔵ヶ崎遺跡	石のみ	1	弥生時代	〃
瓦谷1号墳	甲冑	1	古墳時代	木津町教育委員会
	鏡	1	古墳時代	〃
瓦谷古墳群	埴輪	4	古墳時代	〃
瓦谷埴輪窯	埴輪	4	古墳時代	〃
上人ヶ平遺跡	埴輪	4	古墳時代	〃
木津城山遺跡	破鏡	1	弥生時代	〃
	素文鏡	1	弥生時代	〃
上人ヶ平遺跡	鬼瓦	1	奈良～平安	〃
瀬後谷窯跡	瓦塔	1	奈良～平安	〃
奈良山丘陵瓦窯群	軒丸瓦・軒平瓦	8	奈良～平安	〃
樋の口遺跡	二彩・三彩	5	奈良～平安	〃
弓田遺跡	埴輪	4	古墳時代	〃
聚楽第跡	金箔瓦	5	近世	京都府埋蔵文化財調査研究センター
長岡京跡	木印1、木櫃1、銅印1	3	奈良～平安	〃
	軒丸瓦・軒平瓦	4	奈良～平安	〃
	ナイフ形石器	2	旧石器	〃
平安京跡	須恵器・土師器・緑釉陶器・灰釉陶器	10	奈良～平安	〃
	軒丸瓦・軒平瓦	6	奈良～平安	〃
	中世土器・陶磁器 一括	一括	中世	〃
	近世土器・陶磁器(華南三彩盤) 一括	一括	近世	〃

天王山古墳群	振文鏡	1	古墳時代	久美浜町教育委員会
鳥取城	石鏃・剥片	3	旧石器	〃
市田齊当坊遺跡	弥生土器(中期)	5	弥生時代	久御山町教育委員会
	石剣	6	弥生時代	〃
	玉作り工具類 一括	1	弥生時代	〃
	和鏡	1	奈良～平安	〃
鳥谷4号墳	三足壺	1	古墳時代	京北町
芝山遺跡	石帯	1	奈良～平安	城陽市教育委員会
	翡翠製勾玉	1	古墳時代	〃
棕ノ木遺跡	瓦器・土師器・白磁	8	中世	精華町教育委員会
森垣外遺跡	滑石製模造品	3	古墳時代	〃
	須恵器・土師器	6	古墳時代	〃
挾間墳墓群	玉類 一括	1	弥生時代	園部町教育委員会
平山3号墳	鏡	1	古墳時代	〃
平遺跡	縄文土器(後期・晩期)	6	縄文時代	丹後町教育委員会
	玉類	5	縄文時代	〃
高山12号墳	環頭太刀柄頭	1	古墳時代	〃
	太刀類	3	古墳時代	〃
	玉類	58	古墳時代	〃
	耳環	7	古墳時代	〃
高山3号墳	玉類	18	古墳時代	〃
塩谷5号墳	巫女形埴輪	1	古墳時代	丹波町教育委員会
十三遺跡	ナイフ形石器	1	旧石器	長岡京市教育委員会
雲宮遺跡	弥生土器(前期)	6	弥生時代	京都府埋蔵文化財調査研究センター
舞塚遺跡	ナイフ形石器	2	旧石器	〃
高田山経塚	青白磁小壺(蓋付)	2	中世	福知山市教育委員会
	経筒(蓋付)	4	中世	〃
豊富谷丘陵遺跡	四乳文鏡	1	古墳時代	〃
ヌクモ2号墳	鏡	1	古墳時代	〃
	玉類 一括	一括	古墳時代	〃
興・観音寺遺跡	分銅形土製品	2	弥生時代	〃
	木製かんざし	1	弥生時代	〃
志高遺跡	縄文土器(早期・前期)	6	縄文時代	舞鶴市教育委員会
浦入遺跡	製塩土器(支脚含む)	12	奈良～平安	〃
志高遺跡	石剣	2	弥生時代	〃
	ケツ状耳飾り	1	縄文時代	〃
金谷1号墓	玉類 一括	一括	弥生時代	峰山町教育委員会
赤坂今井墳丘墓	弥生土器	2	弥生時代	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	鉄器	6	弥生時代	〃
古殿遺跡	木製案	1	古墳時代	〃
桑原口遺跡	ガラス製勾玉	1	弥生時代	宮津市教育委員会
宮津城	オランダ陶器	1	近世	〃
池上遺跡	鈴	1	奈良～平安	京都府埋蔵文化財調査研究センター
小谷17号墳	玉類一括、 耳環4	一括 4	古墳時代 古墳時代	八木町教育委員会 〃
愛宕神社古墳古墳	四獣鏡	1	古墳時代	京都府埋蔵文化財調査研究センター
遠所遺跡	製鉄関係遺物	一括	奈良～平安	〃
シミズ谷城	銅製おもり	1	中世	〃
普甲1号墳	玉類 一括	一括	古墳時代	〃
普甲4号墳	玉類 一括	一括	古墳時代	〃
菩提東古墳	鋸齒文鏡	1	古墳時代	〃
奈具岡北1号墳	初期須恵器	6	古墳時代	〃
	銅釦	2	古墳時代	〃
奈具岡遺跡	玉作り関係資料 一括	一括	弥生時代	〃
天竺堂古墳	銅鏡	1	古墳時代	山城町教育委員会
	玉類 一括	一括	古墳時代	〃
内里八丁遺跡	須恵器(托形須恵器含む)	6	奈良～平安	八幡市教育委員会
	土師器	3	奈良～平安	〃
	石帯	1	奈良～平安	〃
	銅製帯金具	1	奈良～平安	〃
	横櫛	1	奈良～平安	〃
備前遺跡	弥生土器(後期)	6	弥生時代	〃



KYOTO  
ARCHAEOLOGY CENTER

---

第17回小さな展覧会 発行日／1999年8月14日

編集・発行／(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40-3 Tel.075-933-3877 印刷／三星商事印刷株式会社

---

主催 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター  
後援 京都府教育委員会 協賛 向日市文化資料館